

研究機関名：旭川医科大学

承認番号	25152
課題名	高齢膠芽腫患者の歩行能力が全生存期間に与える影響
研究期間	2026 年 1 月 19 日（実施許可日） ～ 2027 年 3 月 31 日
研究の対象	膠芽腫と診断され、当院で 2021 年 4 月から 2023 年 3 月までに腫瘍摘出術および、放射線療法と化学療法が行われ、かつ、術前からリハビリテーション科より理学療法が処方された 65 歳以上の患者さん。
利用する試料・情報の種類	<p>■診療情報（詳細：年齢、性別、病変部位、併存疾患、腫瘍に関連する因子、神経学的所見（運動麻痺の有無）、術後合併症の有無、副作用の有無、生存の有無、術後生存期間、リハビリテーション実施日数、在院日数、退院時 Body Mass Index（BMI）、リハビリテーション開始時・終了時の日常生活動作能力（FIM：Functional Independence Measure）など</p> <p><input type="checkbox"/>手術、検査等で採取した組織（対象臓器等名： ）</p> <p><input type="checkbox"/>血液</p> <p><input type="checkbox"/>その他（ ）</p> <p>■利用予定日（開始日：実施許可日から 1 ヶ月後）</p>
研究の意義、目的	<p>膠芽腫（こうがしゅ）は WHO grade 4 に分類される原発性脳腫瘍の中で最も悪性度が高く、いまだ治療の経過が良くないものが多いのが現状です。予後を決する因子として年齢、身体機能や日常生活動作能力、分子生物学的因子などが知られています。近年は高齢化に伴い高齢の膠芽腫の患者さんが増加しています。高齢者の場合、併存疾患や治療に関連した副作用により日常生活を行うための能力が低下することがあり、それが予後に影響する可能性が指摘されています。リハビリテーションは脳腫瘍の患者さんの機能回復に寄与し、特に歩行能力は日常生活動作や生命予後との関連が強いと考えられています。しかし、高齢の膠芽腫の患者さんにおいて歩行能力と予後との関連を検討した報告はほとんどありません。そこで本研究は、65 歳以上の高齢の膠芽腫の患者さんを対象に、歩行の自立度と生存期間との関連を明らかにすることを目的とし、予後不良な膠芽腫患者さんの余生をより有意義なものに貢献できるのではと考えています。</p>
研究の方法	<p>対象は2021年4月から2023年3月までの間に旭川医科大学病院の脳神経外科病棟に入院し、腫瘍摘出術および、放射線療法と化学療法が行われ、かつ、術前からリハビリテーション科より理学療法が処方された65歳以上の方です。診療録を見返し、年齢や性別、併存疾患、日常生活動作能力の経過などといった項目を調査します。そしてリハビリテーションを開始した時と終了した時の日常生活動作能力と、退院後の生存期間との関連を調査します。</p>
試料・情報の管理について責任を有する者	旭川医科大学 学長 西川 祐司

お問い合わせ先	<p>本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。 ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。 情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としますので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。</p> <p>照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：</p> <p>所在地（住所）：旭川市緑が丘東2条1丁目1-1 電話（直通）：0166-69-3550 研究責任者：旭川医科大学病院リハビリテーション部 理学療法士 村岡法彦</p>
---------	---